

第 6 回 市民動物園会議

会 議 録

第6回 市民動物園会議

- 1 日 時 平成21年4月14日（火）14：00から16：00
- 2 場 所 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委 員：原田 昭、いがらし ゆみこ、太田 富士栄
鈴木 美佐子、須藤 深雪、服部 信吾、
（欠席）井上 剛、林 健嗣、原 はるみ

事務局：環境局理事、円山動物園園長、飼育展示課長 ほか

4 議 事

- (1) 平成20年度運営状況報告
 - ・入園状況
 - ・行事等報告
 - ・寄付受理状況（アニマルファミリー、その他寄付）
- (2) 平成21年度予算・行事等の概要
- (3) 委員からの提案・意見交換
- (4) 次回議題と日程調整

1. 開 会

○原田委員長 それでは、予定の時間になりましたので、第6回市民動物園会議を開催したいと思います。

これは、次回が最後ということになりますか。

○北川経営係長 2年間の任期ですと、8月22日までが皆さんの委嘱の任期になります。多分、次回が最後になるかと思えます。

○原田委員長 次回が最後です。

早速、市民動物園会議を開催したいと思います。

2. あいさつ

○原田委員長 まず初めに、異動等がございましたので、そのあたりをご紹介方、お願いします。

○新日環境局理事 きょうは、委員の皆さんには、春先の何かとお忙しいところ、第6回市民動物園会議にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

冒頭、お時間をいただきまして、私の方から、人事異動等がございましたので、ごあいさつをさせていただきたいと思っております。

既に委員の皆様はご承知かと思えますけれども、金澤園長が昨年度末をもちまして定年退職を迎えました。委員の皆様も、せつかく今までリスタートから始まって、市民動物園会議の中でのそれぞれ提言をされているものが少しずつ軌道に乗ってきた中で園長が交代することについては非常に危惧されていたやに思えますけれども、我々役所サイドとすれば、こういう時期に異動することも、退任することも、これは習わしで申しわけない形になりました。

ついては、私はそれこそここに残りましてけれども、今までの流れを、駅伝で言うならばたすきをつなぐという役割なのかな、本来のこのメンバーではございませんけれども、そんな形で心得て、この1年間、しっかりと使命感に燃えて仕事をしていきたいと思えます。

つきましては、人事異動で新たに酒井園長が着任しました。冒頭、まず園長の方から皆様にごあいさつをさせていただいて、その後、園長以下、職員の中でも人事異動がありましたので、自己紹介をさせていただきながら、一言ごあいさつをさせていただきたいと思えます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○酒井園長 皆さん、こんにちは。

今、新日理事から紹介いただきました4月1日付で円山動物園長に着任いたしました酒井と申します。よろしくお願いいたします。

私は、3月末まで札幌市市民まちづくり局の企画課長をしております、広く市政一般に関するまちづくり計画を担当して、言ってみれば広く浅い分野を担当してございました。

今回、4月1日付で円山動物園ということで、動物に関しては非常に深く深く追求していくというところの任につきまして、非常に戸惑いとともに大きなプレッシャーも感じているところでございます。

前任の企画課長の重要な責務の一つに、実は札幌市立大学の所管課長ということもございまして、原田委員長には大変お世話になりまして、今度はこういう形でまたお世話になることになりましたので、何とぞよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

まだ着任2週間ですが、その中での感想と今後の抱負のようなことを若干お話しさせていただこうと思ひます。

私には娘が2人おりまして、上の娘はもう就職しましたが、2人目の子はことし大学に入りまして、もう18歳でございます。考えてみますと、父親として娘を動物園に連れてきてからどのぐらいたつのかなと考えますと、やはり10年ぐらいは来ていないかもしれないなど、聞こえのいい話ではないのですが、そのように考えました。

今度、動物園に着任して中を見てみますと、私が来ていたころの動物園とは大分変わっているところもあるし、また昔懐かしいところもあるなど感じてございます。

やはり、変わったなと思うのは、入園者の客層のすそ野が非常に広がった感じがします。あんなに若いカップルがデートコースのようにここに来ていたということも余り記憶にございませんし、最近目につくのは、仲のいい老夫婦といひますか、高齢のご夫妻が動物園の中を散策されながら楽しんでいるというところが、私が知っている動物園とは随分違うなど感じました。

それから、中に入ってみて私が一番驚きましたのは、飼育員の方々を中心とした職員の皆さんのモチベーションの高さというものを非常に痛感いたしました。特に、飼育員の方々が自分で企画して、自分たちの育てている、世話をしている動物をどうやって市民に見てもらおうか、生き生きと感じてもらえるかという企画をみずからして、積極的にやっている姿が本当にすばらしいなと思ひました。

とはいひながらも、前任の金澤園長の方からは、我々が今までやってきたということは、鉄道事業で言うところ、線路を敷いてその上に列車を乗せた段階であり、走るのはこれからのだから、この流れをとめず、ぜひ前に進めてほしいというふうに引き継ぎを受けました。

やはり、今まで市民会議の皆様のご叱咤激励の中で築き上げてきた部分も大きいと思ひます。今後、私もこの流れをとめないで、継続をして、飼育員を中心とした職員のモチベーションを、それぞれ持っている個性を十分に生かしながら、風通しのよい職場をつくりながら、皆に愛され、私の動物園と言われる円山動物園をつくっていくために頑張っていきたいと思ひますので、今後も皆様からの厳しいご指導と温かいご声援をお願ひして、私も円山動物園と一緒に成長していきたいと思ひますので、どうかよろしくお願ひいたします。

○新目環境局理事 続きまして、鈴木経営管理課長の後任の嶋内課長でございます。

○嶋内経営管理課長 嶋内です。よろしくお願ひします。

○新目環境局理事 それから、渡邊飼育展示課長の後任の上野課長です。

○**上野飼育展示課長** 上野です。どうぞよろしく申し上げます。

○**新目環境局理事** メンバーではございませんけれども、係長クラスでも1名、それから内部異動で1名がかわっております。

以上でございます。

今後とも、どうぞひとつよろしくお願ひいたします。

○**原田委員長** ありがとうございます。

3. 議 事

○**原田委員長** それでは、園長から近況の報告をいただきたいと思ひます。

○**酒井園長** それでは、議事に沿って進めさせていただきたいと存じます。

まず最初に、資料2-1に従ひまして、20年度の入園状況についてご報告をさせていただきたいと思ひます。

資料2-1、A4横長の資料をごらんください。

入園状況につきましては、19年度に比ひまして、合計で9万人ほど増加しまして、70万人を突破いたしました。細かく言うと、70万558人ということで、最終日の3月31日に目標としました70万人を突破することができました。これは、15%のアップということで、再生の取り組みが始まる前の17年度と比較しますと、人数にして21万人、43%のアップということでございます。

この要因については幾つか考えられますが、入園者の比較表を見ていただくと、4月の入園者はかなり伸びてございます。昨年4月は、3施設のリニューアルオープン、ゴールデンウィークに向けた集客に貢献が大きかったかなと思ひます。具体的に言ひますと、4月11日にエゾシカ・オオカミ舎の新設オープン、4月18日には子ども動物園リニューアル、4月25日には類人猿館リニューアルがございまして、4月の集客に大きく貢献したということかと思ひます。先ほども申しましたが、20年7月にはカフェとコンビニがオープンしまして、動物園のリニューアルイメージがここで定着することができたかと考えてございます。

それから、秋口、20年11月には日本唯一のコモドオオトカゲの展示が開始されまして、11月から冬場にかけての集客に貢献できたというふうと考えてございます。

それから、最後にもご報告いたしますが、21年3月にホッキョクグマの双子の公開がございまして、これで3月31日に70万人を突破したということでございます。

この辺を総括いたしますと、新しい施設のオープンが大きかったということと、冬場の集客率の向上ですね。グラフの一番右側の縦長のグラフを見ていただくと、一番上が20年度ですが、やはり秋口から冬場にかけての集客の立ち上がりは以前に比べて随分伸びているということが、このグラフからもわかると思ひます。冬場の集客率が向上したということです。それから、アニマルファミリー制度などの取り組みによる全体としての底上げが図られたのかなと考えてございます。

続きまして、行事等の報告に移りたいと思います。

次のページをごらんください。

昨年度に開催しましたイベントは、これまでの会議で、随時、状況を報告してまいりましたので、今回は総まとめとして掲載してございます。この中の13番なり19番などアニマルファミリー会員向けに行われましたイベントも11件含まれておりまして、その中には61番のいがらし委員に講師をお願いしましたイラスト教室がございました。

いがらし委員、ありがとうございました。

〇いがらし委員 楽しかったです。

〇酒井園長 それから、きょうはご欠席ですが、林委員のアイデアから始まった68番の恋人たちのクリスマスナイトZOOも好評で2年目を迎えてございます。

それから、円山動物園の特徴の一つでもあるのですが、アート作品などで市民が参加するイベントや、企業、NPO、大学などと協働して行われるコラボイベントが非常に多く、全体の8割以上を占めているということです。

88番に、これはちょっとマニア向けという話もございますが、スネークアートマニックスでは、市民が参加してのヘビのアート展が非常に好評だったと聞いてございます。

それから、36番、46番など、子育て支援のNPOによる子育てサロンも定着を見せました。

それから、65番、干支の特別展では、サツラク農協から子牛を借りて展示しまして、酪農学園大学の学生がイベントボランティアで参加したということです。

このように、産学官民のさまざまな分野の皆様を支えられ、楽しいものになっていく動物園の姿があらわれているというふうに総括できるのではないのでしょうか。

続きまして、資料2-3、寄附受理の状況についてご説明いたします。

この資料では、20年度に現金でいただいた寄附のみを掲載してございまして、決算見込み額の掲載となっております。最終的な決算で数字は若干変わる可能性があります。寄附者別に見ますと、アニマルファミリーで約300万円、企業、団体からの寄附が約700万円、市民個人からが22万円ということです。

これを要因別に内訳を見ますと、グッズ売り上げ代の一部がえさ代として寄附されたものが40万円、園内の売店、食堂の売り上げの一部が集客事業のために寄附されたものが370万円余、イベントに伴う寄附では狸小路商店街の現金つかみ取りなどから30万円、その他の支援は一般的な寄附で600万円となっております。

下の方に米印でも書いてございますが、このほか現金以外の寄附としまして、ホッキョクグマの監視カメラなど、札幌トヨペットさんから500万円相当の機材を寄附していただいております。一般のお客様からもリンゴでとかカボチャの種などたくさんの気持ちをいただいております。

先ほどホッキョクグマの話をちょっとさせていただきましたが、今話題になっておりますホッキョクグマの状況もあわせてご報告させていただきたいと思っております。

ホッキョクグマのララと、今、釧路の方に出張に出かけましたデナリの双子の赤ちゃんが昨年12月9日に誕生いたしました、この3月2日から一般公開となっております。現在、両方の個体の成長具合といいますか、大きさは2頭ともほぼ一緒で、体長は80センチ、体重としては20キログラムずつということでございます。今現在はまだ雪が残っていますので、雪で遊んだりしていますが、来週の日曜日、19日からはプールデビューということで、プールに徐々に水を張りながら水遊びもなれてもらおうと、今、飼育展示の方では考えているというところです。

平成20年度の運営状況報告については以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、平成20年度の運営状況報告について、委員の先生方からご質問、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○いがらし委員 何を言えばいいのでしょうか。すごいとかですか。

○原田委員長 すごいでも結構でございます。

○いがらし委員 よかったですね、70万人。

○須藤委員 順調にきていますね。おめでとうございます。

○鈴木委員 アニマルファミリーが始まって1年ちょっとたっていますが、その更新といったところが気になっています。私が知っている2名のデータで大変申しわけないのですが、なかなか次のものが送られてこなくて心配していたような話を聞いたのです。そのあたりの経緯というか、更新をなさった数を教えていただけたらと思います。

○酒井園長 アニマルファミリー会員の比較ですが、2008年4月現在のほか、1年前の会員数は、件数として135名、口数として187、金額としまして99万8,000円でございます。これが、現在のアニマルファミリーの件数に関しましては、件数では131、口数では大幅にふえまして266、金額で160万2,000円でございます。

これを比率でお話ししますと、件数としては97%と微減でございますが、口数でいくと142%、4割増しです。金額では161%でございます。

さらに、そのうちどのぐらいの会員が継続されたのかということでございますが、件数としては64人の方です。具体的な継続率で言うと、47%、半分弱の方です。口数でいきますと、116が継続会員で、継続率としては62%、金額でいくと53%の継続というのが今の段階の数字でございます。

なかなか送られてこなかったというのは、案内がということですか。

○鈴木委員 いえ、次の申し込みをしたのだけれども、その次の会員証や資料がまだ来ないというような話を耳にしました。

リピーターの方たちをきちんと確保していくことが重要だと思いますが、そのあたりはまだ分析なさっていないのですね。

○酒井園長 そうです。まだ数字の段階なので、件数としての47%がどういうものなのかというのは、よく分析するなり、実際にお話を聞いてみて、またご報告したいと思いま

す。

○原田委員長 ありがとうございます。

今のアニマルファミリーの継続というのは、1年というのは結構早く来てしまうので、面倒くさいなというのか、それとも早く来てよかったのか、両方あるかと思います。一般的に、会員になるという場合は、何もしなければ更新というやり方もあるのです。それで、ちゃんと次の年度の入ったカードが送られてくるという方がスムーズでいいような気がするのです。この辺のやり方については検討していただきたいと思います。

もう一つ、アニマルファミリーに関しましては、私も、一言、言いたいことがあります。

昨年ぐらいに、アニマルファミリー制度という制度というか、そういうシステムを動物園でやったらいいというのは、最初の構想報告書でつくられたものですが、動物園に来ている時間帯以外の時間帯に家で動物を見て楽しみたいというふうにするというのではないか、その基本的な考え方は動物園の動物をたん市民にお返ししてしまうという考え方です。例えばライオンにしても、シロクマのツインズが生まれたということもありますし、そういう人気の動物たちを預かってもらうといいますか、そのかわり、えさ代をくださいという形で、非常にスムーズにそこでの取引関係というよりも、自分の家族にしたような気分にするというサービスが、リピーターをふやし、私の動物園という考え方もそれで実現するのではないかとこのように計画していたわけです。

できれば、その実験を一昨年の暮れぐらいから始めて、昨年、フィールド調査の結果が出たと。この動物園を使わせていただいて、弟路郎をファミリーにする市民の約100名ぐらいにモニターになっていただいて、実際に家で見させていただくと。それから、イベントがあればそれをご招待するという形で、擬似的な実験をやっていたわけです。それで、非常に人気があったので、こういういわゆるライブの画像を提供するサービスをアニマルファミリー制度の中に組み込んでいけば、こんなにお客さんに喜んでいただけるのではないかとこのように計画チームは持ったわけです。

しかし、その実現が、アニマルファミリー制度というのは、お金を出しているわけなので、動物園サイドが逆にお金に見合うサービスをどれだけできるのかということ、継続するか、しないかの意思決定がされていると思います。それから、もっともっと動物の世界を、動物園があいている時間帯だけでなく、オープンにさせていただくという企画を打ち出して、これは人手がかからないやり方、イベント、サービスでもあると思いますので、例えば欧米等で寄附をいただいて動物園を維持しているような考え方に、具体的にライブの映像を常に流せるというサービスをしていくことによって、市民と動物園とのつながりを深めていく、それこそ私の動物園を成立させていくと。動物園サイドで、そういう事業計画をもう少しきちんと立てていただければ、アニマルファミリー制度は、入らなければ損だ、そんなにいい話はみたくないことになるわけです。

かつ、今まで動物園という野生的な動物から人間というのはいろいろなサービスを受けてきているわけで、逆に市民サイドからサービスを返してあげるとこのようなやりとり、

双方向のサービスのし合いみたいなことをやっていくためにも、これは全く費用をかけないでやることはなかなか難しいので、その財源としてもアニマルファミリー制度というものの存在が非常に有効に働くのではないかと思うのです。

幾つかの展示等がリフレッシュされて、オランウータン舎が初めだったと思いますけれども、あそこもなかなか緑豊かで、弟路郎も随分元気になっているなという感じもします。それから、次々といろいろなページがつくられておりますが、なかなかフレッシュな感覚で、人気もいいように思うのです。そういう結果が何十万人というような結果にもなっているようだし、全体の活気がすごく感じられるようになって、いい動物園になってきたなとおっしゃる方もたくさんおります。なかなかいい方向に滑り出しているわけですから、そういう情報系の技術の導入で、余りお金をかねないで、かつ人件費がかからないような仕組みで自動化されたサービスの提供をやっていければ、もっともっと人々が近い動物園になってくるのではないかと思います。

ちょっと長く言い過ぎましたが、アニマルファミリー制度に絡んで申し上げました。

方向としては、非常にいい方向に動いていて、かかわっている私どもも非常にうれしい気持ちでいっぱいでございます。

ほかに何かご意見ございましたらどうぞ。

〇いがらし委員 1年ずつで区切るというのは、面倒くさくなってやめてしまって、継続者が減るということとイコールだと思うのです。だから、一度アニマルファミリーの会員になってくださった方は、1年と言わず、最初にアニマルファミリーの会員になりましょうよだけで、あとは本人からやめると言わない限り継続という形を今回からはとらせていただきますぐらいでやっていった方が発展的だと思うのです。

簡単に言ってしまうと、コンビニのカードだってそうです。「ポイントカードありますか」と言われると、出してしまいますね。そういう感じで期限がなくてポイント的な形で、私はいつでもパンダになっておりの中に入って客集めをしますから、おりに入りたいがらしを見られるみたいなポイントでも構わないので、ちょっとしたポイントがずっと継続していく上でふえていくということにして、絶対に1年ずつに区切らない方がいいと思います。

〇鈴木委員 新しい園長に申し上げたいのは、新年度から耳の痛いことを申し上げるのはやめておこうと思ったのですが、私が聞いた2人は大変熱心な動物園ファンなので、一生懸命、次の更新をしようとしていたのに、ちょっと反応が悪いというところですね。今、いがらし委員がおっしゃったポイントは、持っているのと、そこでグッズを買うのに少し割引になるのです。そういうささやかなことも割と楽しみにしているのです、特権というのはあった方がいいと思います。

私はそれを思いつかなかったのですが、おっしゃるように、お断りしなければ更新して下さって振込用紙が送られてくるという形にしていただくのが一番いいと思います。

それと、1年、アニマルファミリーの会員でいたことでよかったなと思うことが余りなかったような感想を持ったので、そのあたりをもう一度振り返られて、今のご意見があったような形で生かしていけたらいいと思います。

○酒井園長 原田委員長からお話がありましたのは、今、鈴木委員のお話も一緒だと思うのですが、やはり、よかったなと思うサービスメニューを充実させるということと、原田委員長からお話があったライブカメラですね。情報系のようなもので、余りお金をかけないということは、まさに、きのう、ホームページの会議の中でもそういう議論もしております、検討しようと思ってございます。そういうサービスメニューの充実の中でそういうことを考えていきたいということと、やはり継続を促すため、余りやくぎにならない程度に、ずっと継続されたいという方もこれだけいらっしゃるの、手続的に便利な方法とはどういうものなのかということを私どもの方で検討して、またお答えしたいと思います。

○原田委員長 今、振り込みの方法がすごく限られているので、カード決済ができるとか、ニコ決済ができるというふうになっていると、すごく楽だと思うのです。今のシステムは現金を入れなければならないということで、ちょっとやりにくいところがあるように思います。その辺がスムーズにいけるといいのではないのでしょうか。

○須藤委員 3月は、卒園とか、子どもたちのこととか、異動があつて、手続がおくれたりするのです。私は、それを見逃してしまって、きょうまた新規で子どもに頼まれて入ったのです。できれば、いがらし委員や委員長がおっしゃるように、断らなければそのまま継続の方がありがたいです。

あとは、先ほどのライブカメラの設置についてですけれども、遠方の方はしょっちゅう来るわけにはいきません。そういう場合、遠方の人、またはハンディキャップのある人、自分では来られない小さな子どもたちが常に私の家族に会えるというのはすごく大事なことだと思うのです。前に話しましたが、うちの子どももそうなのです。

たしか、うろ覚えなのですが、アメリカのナショナルズーロジカルパークに富士フィルムが提供しているのでしょうか、スポンサーにフィルムとかカメラや映像関係の方についていただくと予算的に楽になっていくのかなと思いますので、ちょっとアメリカの例を出してお願いできませんかと、日本でもやってみませんかとお願ひするのも一つの方法かと思ひます。

○酒井園長 ありがとうございます。

○原田委員長 ほかに、今の平成20年度の報告についてありますか。

○服部副委員長 新園長からいろいろ説明があつたのですが、そのとおりで、数字を見ますと、やはり冬場の努力が実つて70万人という大台に乗つたということがうかがえます。そういう意味では、やはりイベントが大きなテーマになってくるでしょうし、今お話し合いなさつておられるように、アニマルファミリーの盛衰がかぎを握つてくるのかなという感じがします。

そういう意味では、冬場のイベントあるいは夏場のイベントを一つ一つ評価していくべ

きだろうと思うのです。実際にこのイベントでどういう成果が上がったかというのは、やはり実数がつきまってくるわけですから、そういった観点から21年度も当然のごとくいろいろな行事を行ってくるでしょうから、これを分析して評価して、さらに継続するのは継続する、あるいは新たに行事をつくり上げるものはつくり上げていくという作業が必要になってくるだろうと思います。また、アニマルファミリーに対する対策というか、行事その他も含めてまだまだ足りない部分があるので、根本からアニマルファミリーに対してのサービスする内容を精査していく、検討していく、研究していく必要があるだろうと思うのです。今、アニマルファミリーでお話が出ていますけれども、こういう映像をライブで流すというのは携帯サイトで流せる時代に入ってきているわけです。企業から言わせると、企業の内容が携帯のウェブサイトで流れる時代に来ているわけですから、一つの動物のおりを全部企業と思えばいいわけです。そういう意味では、簡単にできる部分であって、あしたやろうと思っても、きょうにでもやろうと思えばすぐにできる、既にある技術なのです。そんなことで、このアニマルファミリー制度を強化して充実させていく、そして顧客満足度を高めていくことが大変大事だろうと思うのです。それが、80万人、90万人という枠組みに伸びていくというふうになると思います。

そういった観点から、行事の内容、やり方、進め方、その結果がいかがだったのかというのは、当然、描かれていることだろうと思うのですけれども、ぜひ一度、次回の会議の中でそこら辺の評価も見せていただきたいと思います。

この数字上からいくと、70万人は突破したのですけれども、これがやがて80万人、90万人、100万人という形で進んでいくとすれば、やはり5月の連休の伸びが少ないです。さらに、秋の動きが弱いです。その数字からすると、5月が弱く、さらには9月、10月が弱いということで、この辺の弱いところはもう少し戦略を練ってやっていくべきだろうと思いますが、その一つがアニマルファミリー制度です。これは、リスタート委員会の時代からアニマルファミリー制度の充実を掲げて今日まで来ているわけですから、ここでもう一遍、新たなスタートを切るためにも、いろいろな角度からの点検評価をしていくべきだろうと思います。

いずれにしても、努力して、結果として70万人という数字を突破したことは、私ども市民会議のメンバーとしても大変うれしいことですし、市民会議を通していろいろな意見を出したことの成果も若干あったのではなかろうかということで満足しているところです。

そこで、前園長のリスタートからの計画、構想がようやく実を結んだ、あるいは実を結ぼうとしているということで、前園長の努力、評価というものをこの会議の中でもしておくべきことではなかろうかということをつけ加えさせていただきました。

いずれにしても、新園長に前園長からの申し伝えの言葉のとおり、機関車が乗ったということだろうと思います。機関車を乗つけるというのはなかなかの作業ですけれども、今度は第1回目の車輪を回すときのエネルギーは物すごく要るのです。そのエネルギーをどこに求めるかといったら、やはりアニマルファミリーだろうと思います。そして、一般

入園者に対する行事、あるいはアニマルファミリーに対するサービスがきちんと図られていくと、大きい車輪も回しやすく、いわゆる100万人という入園者を来場させるための第一歩の車輪を回すわけです。そういう意味では、頑張ってやっていただきたいことをお願いしておきたいと思います。

○原田委員長 ほかに何かございませんか。

平成19年度と平成20年度の間に約10万人の入園者がふえたわけですね。それは収入の点でいくと、どれぐらいふえているのでしょうか。4,300万円ぐらいと言えるのではないのでしょうか。

○酒井園長 収入はこれからご説明いたします。

○原田委員長 それでは、次の議題に入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 それでは、議題(2)の平成21年度予算・行事等の概要ということで、ご説明をお願いしたいと思います。

○酒井園長 それでは、資料3に基づきまして、今年度、21年度の予算・行事等の概要についてをご説明させていただきたいと思います。

今も服部副委員長の方からもお話がございましたように、21年度の入園者数の目標は基本計画に記したとおり80万人とさせていただいています。これを実現するために、今、服部副委員長の方からお話があったような一般来場者に対するイベントの充実、そのための評価をきちんとやっていかなければなりません。それからアニマルファミリーと両輪で、アニマルファミリーのメニューの充実をすることは非常に重要だというご指摘をいただきました。そういうことを踏まえながら、この80万人をぜひ実現させたいということで、今、目標にさせていただいているところでございます。

これに向けまして、予算のところでございますが、動物園の経常的な運営費としまして、2のところですが、約4億7,000万円を計上してございます。続きまして、新たな投資として施設の整備に2億3,000万円、合計で約7億円の予算となっております。これは、20年度と比較しますと17%の減となっております。

3にまいりまして、主な施設の建設の予定でございます。自然体験ゾーン、いわゆるピオトープが完成してございまして、この4月下旬からガイドによるツアーを開催する予定でございます。また、今年度建設するものとしたしましては、オオワシの野生復帰のための訓練ケージ、繁殖ケージ、それと北海道ゾーンのエゾヒグマ館を建設する予定でございます。エゾヒグマ館に関しましては、人と野生動物の共存を考える上で非常に重要なメッセージを発信する施設となるということで、その設計に当たりましては、札幌市立大学デザイン学部のご協力を得まして、ヒグマの生態をさまざまな角度で観察できる自信作というふうに我々は考えてございます。

原田委員長、ありがとうございました。

次に、4の経常的収支の推移でございます。基本構想、基本計画にも宣言しているとお

り、円山動物園では経常的収支の均衡を目指してございます。この資料で改革前の2005年度、平成17年度の決算数値と、今回の2008年度、平成20年度の決算見込みの部分と比較していただきたいと思います。この3年間の取り組みの結果としまして、歳入で、入園料や寄附の伸びによりまして、約8,000万円の増収が図られました。と申しますのは、平成17年度の1億5,800万円の収入に対しまして、21年度が2億3,800万円ということで、約8,000万円の増収が図られたということでございます。これも、隣の2008年度の目標からすると、約1,000万円下回っている現状でございます。

人件費と施設整備費を除きます経常経費につきましては、海獣プールや清掃時などの水の節約で2005年と2008年決算見込みで約2,500万円の減額を実現してございます。それから、熱帯植物館解体や事務所の暖房抑制による重油、灯油代の節約で約1,000万円、2005年が6,100万円に対しまして2008年の決算見込みで5,100万円と、約1,000万円の減ということです。それから、えさ代の一括購入や在庫管理の徹底による節約で、これも2005年に比べまして約2,400万円の削減を図ってございます。反対に、今、積極的に行いましたイベントや、それに係る事務費等の増額分を差し引いても、トータルで約5,400万円の経費節減を行ったことになってございます。これは、2008年の目標1,000万円を上回っているということでございます。

結果としまして、収支をトータルいたしますと、この3年間の経営努力によりまして、2005年度の収支差2億7,000万円から2008年度の決算見込みは1億3,700万円まで圧縮したということで、その収支差といたしまして約1億3,000万円の改善が図られたということが言えると思います。

今後、さらなる努力によりまして、入園者数をふやし、経費の節減に努めまして収支の均衡を目指したいというふうに考えているところでございます。

そのためにも、次のページの5の21年度の主な行事予定がございしますが、先ほどご指摘もありましたように、21年度も手を休めずさまざまなイベントを実施してまいりたいと思っております。今年度は、全国的な注目を浴びて、先ほどもご紹介いたしました非常に話題性の高いホッキョクグマを中心に夏休み特別展示などを企画するなど集客に力を入れまして、効果的な広報、PRを行いたいと考えてございます。

以上で20年度の報告、さらに21年度の予定についての説明を終わらせていただきます。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

ただいま、平成20年度、21年度の予算ということでご報告いただきましたけれども、これについていかがでしょうか。

服部副委員長、歳入歳出についていかがでしょうか。

○服部副委員長 大変努力していただいている姿が見えているわけですがけれども、もう一

つ頑張ってもらわなければならないのは、維持管理委託費等々がこの中で2005年度からそう大差はないのです。これが2009年度、2010年度と推移していく中で努力していかなければならない部分になるわけですが、維持管理、委託費等々をもう少し合理化すればこの辺はできることがたくさんあるだろうと思うのです。これは、リスタート委員会の段階でもお話が出たと思うのですが、例えば、冬場の雪の中、一生懸命もぎりをしていただいたのは大変うれしいことですが、この辺はある意味で自動化できる要素があります。さらに、いろいろなことを考えていけば、維持管理を詰めるというのは大変大事なことになると思うのです。維持管理をおろそかにするなということではなくて、削減できるところは削減する、人の手にかかわらないところは機械がするということでコスト削減に努めていかないと、2009年度の目標は達成できないだろうと思うのです。その辺の精査云々はできていると思うのですが、若干弱い点があります。ある意味において、今申し上げたような人海戦術をとっているところがありますし、人手はサービスに大いにかけていくことでありますので、人手をかけなくてもいいサービスは機械化で行うということも大事だと思います。

それから、歳入の問題では入園料の問題が出てくると思います。これは、いずれ議題が出てくるだろうと思いますけれども、現状としては維持をしていくという考え方でおられるのですから、ほかのもので何をカバーしていくかということ、やはり広告料です。その広告はどういう形でやっていくかというのは、企業も苦しいのですけれども、企業に対する広告の努力がどのくらいされているのかということがこれから大事なことになるだろうと思うのです。もう少し頑張れば、この広告料はこのレベルではないのではないかと思うのです。目標値を非常に低く抑えているわけですが、目標値を低く抑えている部分に甘んじることなく、ぜひ企業にも声をかけていただきたいのです。

あとは、今申し上げたように、いずれ入園料に手をつけなければならないと思いますので、この辺も市民会議の一つの議題にしていくべきではないかと思います。そうすることによって、全体の歳入といたしましうか、基本的には民間でいけば収入の部でございますけれども、収入の部を相当頑張らないと初期投資の償却ができません。では、償却をどこでしていくのかということになっていくわけですから、そういう意味では収入を上げる、いわゆる入園数を上げていくことが入園料につながります、あるいは、広告料も含めて入園料の枠組みですよということで、広告料、寄附金等はプロジェクトを組みながら12か月間動いていくような仕組みをつくってほしいと思っております。

いずれにしても、経費を削減している努力は認めますが、まだまだ削減できるところは削減してほしい、徹底的に収入を上げてほしいというのが私からの意見です。この中には基本的には人件費は含まれていませんから、人件費を入れていくと、そういう意味では、いずれ市民はそこを注視していくことになるだろうということでございます。それをカバーしていくには入園数ということが大事になりますので、ぜひ、80万人が目標でございますけれども、80万人をいかに超えて、どのぐらい上積みをしていく

かということを考えていていただきたい、これが新園長のお務めではないかと思ます。
よろしくをお願いします。

○酒井園長 ありがとうございます。

まず一つ目は、維持管理の部分については、内容の精査の度合いを強めて、削減できる
ところはないのか、また機械化等によって削減する余地はないのかという検討をしてほし
いということだと思います。それから、入園料に関しましては、いずれはこういう中でも
議題にすると。当面は維持というふうに理解しているけれども、当面はそこに手をつけな
いということになれば、例えば広告料のようなものをより努力することによって収入の底
上げをさらに努力すべきだろうというご指摘というふうに受けとめましたので、そういう
内容で私どもも努力したいと思います。

ありがとうございます

○原田委員長 服部副委員長から、かなりから目のご発言をいただきました。私がぱっと
見て、この経費はかなり削減努力をされて、入園料を含んだ歳入がかなり上がってきてい
るなというあたりは、非常によく頑張っているなと私自身は思っております。

ただ、これは20万人ふえて8,000万円の増ということですから、10万人ふえて
4,000万円ふえるという計算になります。簡単に考えてしまいますと、アニマルファ
ミリー制度は1口5,000円なのです。それで、70万人のうちの1割とは言わないで
1%、1%で7,000人です。7万人で10%ですから、1%で7,000人、7,0
00人に5,000円を掛けると3,500万円です。これは、10万人に匹敵するわけ
なのです。私は、そこを自動化し、無人化したイベントサービスでライブ画像を送るとい
うサービスなわけですから、これをもうちょっとスピードアップして実現化させていく必
要が、経理上もあるのではないかと私は思っているわけでございます。

当初目標としましては、私は1割ぐらいの人に入ってもらおうということでは7万人など
と言っていましたが、7万人で5,000円ですと3億5,000万円ですから、そろそ
ろ黒字になってしまうかなと思います。そんなところがぼんとはね上がりますが、まずは
1%目標で、今のところ、1%でなくて7,000人の10分の1ですから0.1%の半
分の百何十人ですね。何人でしたか。

○服部副委員長 131件……。

○原田委員長 だから、0.003ぐらいということになるわけです。やはり、1%程度
を目指した目標でアニマルファミリーをふやしていくというところで、まず基本的な財源
を見込むというあたりを考えるべきかなと思います。

ほかに、平成21年度予算・行事等の概要について、ご意見があればお願いします。

○鈴木委員 今の点についてですけれども、今のアニマルファミリー制度は、とりあえず
試行ということで、動物も限って、もう1年たったわけです。スピードが大事だというこ
ろがあったし、この後どうなるのか、5,000円でいいのかという議論も以前にござ
いしました。1年たったところで、先ほどおっしゃったように、機関車が動き出す動力にし

ていくのに、ここでもう少し大きくするなり、せつかく双子がいるわけですから、そういうところも一緒にリニューアルというか、そういう起爆剤になるようにもう一度アニマルファミリーを大きく打ち出すということが必要ではないかと思います。

昨年度、入園者が大変ふえてよかったのですが、それと同じように、ことしも同じペースでふやすとなると、そんなに目玉がたくさんあるわけでもないと思いますので、それこそ起爆剤にしなければいけないのではないかと思います。

動物をふやすことはお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

○服部副委員長 その点については、今、鈴木委員がおっしゃったように、1年の試行期間であったことは間違いありません。私は、そういった意味では、減少というよりも、微減ということでよかったのかなと思うのです。131件というのは、数字的には非常に弱いので、委員長がおっしゃるような、ここを強化していく手だてとしては、どうしても早急に、まさしくリスタートのリメイクをしていかなければいけない時期かなと思いますし、それが大変重要なかぎを握っていると思いますので、ぜひアニマルファミリー制度の充実をしっかりとってほしいと思います。

その一つがウェブを使った無人化です。これは、サービスの向上から見ても大変大事なことであると思います。動物園に来ていただいて見てもらえばそれでいいのだということではなくて、やはり24時間、365日ファミリーですから、私の動物園としての私の動物をケアしてもらえよう体制づくりをしてほしいのです。これが、いわゆる顧客満足度というもので、さらに口コミで広がっていくことになると思います。

現状では、アニマルファミリー制度は市民にはまだまだ認識されていません。それは数字上から見るができるわけですから、そういう意味では認識してもらうことがまず基本だろうと思います。そのためには、全体的にはアニマルファミリー制度を見直してリメイクしていく必要があるだろうと思います。

○鈴木委員 始めたときにマスコミ等で随分取り上げていただいたように思うのです。ですから、もう一度、新しい形でやり直して、どういうところを柱にしていくのかということをもう一度市民に知っていただくような広報も同時に行っていただきたいと思います。

○須藤委員 口コミではないですけども、ファミリー制度に入っているとこんなシールがもらえるよと。シール1枚でもいいのですけれども、ちょっとほかの子とは違うのだというのがあると、何それという話になっていくと思うのです。小学校に入ると、だんだんインターネットも使えるようになってくるので、うちでは見られるという話になると、僕も見たいなという話になってくると思うのです。あとは、学校で宣伝していただいて、教育の場で使っていただいて、カムがあるということを広めていくのも一つの方法かと思っています。

○原田委員長 私は、何かあったときに間髪入れずに、例えばララファミリーがいるとすると、最初は元気なのかどうなのかよくわからなかったということもありましたけれども、赤外線ビデオで見て、あれが動物園のウェブにずっと出ていましたね。そして、私が見た

のは1月27日でしたか、すごく小さくて、母親の顔がこんなに大きくて、元気でなめていると、あれは物すごい感動なのです。あれは何回見ても同じ画像ですけど、ライブでいつも違う画像が見られる。赤ちゃんが産まれた、もう元気だということがわかったら、ツインのTシャツぐらい、めったにないことなのですから、そのファミリーにどんと送ってしまうくらいのことをすると、あっという間に広がると思うのです。もう早い者勝ちみたいに殺到してくるのではないかと思いますけれども、そういうスピーディーなサービスが必要なのではないですか。

○須藤委員 子どもは敏感ですからね。すぐ学校に着ていきますしね。

○原田委員長 どこでもらったのみたいになりますよね。

○須藤委員 そういう話になりますからね。自慢したがりです。

○いがらし委員 自慢したがりですよね。

○須藤委員 そうなのです。これをテレビでやっていたでしょうと。

○いがらし委員 親も、子どもがそれで満足したらうれしいですよ。

○須藤委員 うれしいですよ。

そういう親心、子心をくすぐるようなものを入れると、よりお財布の口も緩むのではないかと思います。

○いがらし委員 笑顔でお財布を……。

○原田委員長 今はまだファミリー対象の動物が7頭くらいしかいませんから、まだ楽だと思えるのですが、これが100頭ぐらいになってきたら大変で右往左往してしまうのかもしれない。それにしても、手がかからないサービスをどうやって普及させて仲間をふやしていくかというあたりは、ぜひ、よその動物園で大々的にやる前にやっていただきたいと思えます。

よその動物園から、それを円山で実施しないならもらえないかという軽いことを言うのです。ちょっと待てよという感じですけど、それはもう欲しがっているソフトだと思えるのです。

○服部副委員長 円山動物園としては、やはりそこが売り物として位置づけていくというのは大事なことです。そういう意味では、私の動物園の位置づけがクリアされていくと。私の動物園ということは、とりもなおさず、ファン層、これはコンサドーレでも日ハムでも同じことではしょうけれども、サポーターになっていただけるということです。サポーターというのは、ある意味においては悲痛なぐらいに求めてくるのです。例えば、スポーツであれば、どんなことがあっても勝ってほしいと願います。いつも自分のところには自分のファンの選手を置いておきたい、それがグッズにつながっていくのだらうと思えるのです。

そういう意味では、アニマルファミリー制度の充実というのは、絶えず24時間、何らかのコミュニケーションをとれるような体制をつくるということは必要だろうと思えます。

○原田委員長 企画内容のリフレッシュが必要かと思えます。

○須藤委員 ファミリー制度にファンのなところですけど、親の立場として言うと、

教育的な意味合いも含めて、習い事の一環ではないですが、教育につながるのだとなったら、そこはまた違う形で入ってくる人がいると思うのです。やはり少子化になっているので、子どもの教育にお金をかけるようになっていきます。そこで、寄附という形で、私もファミリーとして入るのもいいですが、お誕生会ということだけではなくて、自分のファミリーが実際に生息しているところの環境はどうか、そこで起こっている環境問題は何か、小さい子でもわかるように、年齢の対象を別にしてもいいのですけれども、それはそのときによって開催される方が考えられたらいいと思うのですが、教育も入れていくと、また違った視点で入ってくださるのではないのでしょうか。

○原田委員長 動物園そのものが社会教育の施設として存在しているわけですし、小さい子どものためには教育的な効果が非常に高いと、ファミリー制度に入るより高いということだとお母さんたちは喜ぶでしょうね。安心するでしょうね。

○須藤委員 特に、小さい子は信じ込むというか、すっと入っていきます。

○原田委員長 本当に好きなことを教えていると、何でこんなに詳しくなってしまったのぐらいよく覚えていきますね。

○須藤委員 覚えますし、それがずっと継続していきます。

今度、うちの子の更新がうまくいかなかったので新規になったのですが、ほかの動物にするかいと聞いたら、それは今までのココとレディがいいとそれぞれ言うのです。やはり愛着がだんだんわいてきて、かえたくないのです。ことしもそれでいくと言うのです。そういう点でも、何か企画していただけると楽しいのではないかと思います。

○原田委員長 もう一つは、動物園は5時で出なさいと言われるのです。では、夜行性の動物は、後は家で見るよみみたいな見方もあるのではないのでしょうか。夜、元気になって飛んだりねたりしていると。そういう動物は動物園ではなかなか見にくいし、見えないのです。何か無理やり眠い目をこすっているような動物しか見ていないわけです。家で、ディスプレイの上でライブで生き生きしたところが見えるという見せ方も一つのサービスとしてあるのではないかと思います。その動物をファミリーにするかどうかは別にして、ファミリーはそれを見られるというサービスはあるのではないかと思います。

平成21年度予算・行事等の概要からまたアニマルファミリーに戻ってしまいました。

それでは、ここから自由に、これから動物園に望むこととか、この辺はどうなっているとか、気がついていることなどがございましたらご意見をいただけませんか。

○服部副委員長 私の方から、ひとつ気になっていたことを申し上げます。

以前にも何回か発言をしたり、ご意見をいただいたりもしたことがあるのですがけれども、札幌市の鳥がカッコウですけれども、これは、大きな環境という問題、野生復帰という問題から見ても、あるいは種の保存というレベルから見ても、札幌市の鳥がカッコウである限りは、この辺に手をつける必要があるのではないかと思います。

実際、私の子どもが小さいときは、公園やいろいろなところでカッコウの声を聞きながら暮らしていたのです。それが札幌市の鳥としてずっと今日まで来ているのでしょうか。

ども、今はどこに行っても聞こえません。これは、すめるような環境ではなくなったということが原因なのでしょうけれども、この辺のレベルで野生復帰プログラムで、あるいは種の保存という問題も含めて、あるいは、環境問題、環境教育という問題も含めて、トータル的にカッコウプロジェクトをつくって市民にアピールする、動物園の一面性をやはりしっかりと見せていく、あるいは見守ってもらうというのでしょうか、あるいは、ともに歩いていく、これは市民を巻き込まなければ札幌市内でカッコウの声を聞くことはできないのです。これを成し得ていくとすれば、やはり動物園がこれを果たしていかなければいけない、まさに環境局の大事なところだと思うのです。ぜひ、その辺をどう考えられるのか、あるいは、ぜひやっていただきたいということです。

これは、動物園がやっていくには、プロジェクトとしてはいいテーマの一つになると思います。札幌でカッコウが聞こえる、それは世界的にも評価される問題ではないかと思います。大げさなことを言いましたけれども、この辺を市民会議としても……。

○原田委員長 札幌でカッコウの声を聞けるのですか。

○いがらし委員 最近はずべてありません。

○原田委員長 昔はいたのですか。

○服部副委員長 昔はいたのです。

○いがらし委員 昔は聞きましたね。

○服部副委員長 今でも札幌市の市鳥になっているのでしょうか。市の鳥ですね。

○新日環境局理事 そうです。

○服部副委員長 やはり、その辺が忘れ去られて……。

○原田委員長 子どもは、みんな聞いたことがないと言うでしょうね。

○服部副委員長 芸術の森の常盤あたりでも聞いていないのですか。

○原田委員長 聞いていないですね。

○上野飼育展示課長 郊外の牧草地では聞こえますけれども、今は少なくなりまして、めったに聞けません。昔、私が役所に入ったころだと、郊外の牧草地に行って、よく耳を澄ませば聞こえました。開けたところへ行って聞こえました。今は、本当に少なくなりました。

○服部副委員長 でも、おられますか。

○上野飼育展示課長 私も、このごろは聞いたことがありません。本当に札幌市内でもいるかどうか分からないのです。

○服部副委員長 市内では、これは調査してみればわかるでしょうけれども、聞いた人がいるかということでメールを流せば……。

○いがらし委員 野鳥の会関係で情報が入るのではないですか。

○上野飼育展示課長 そうですね、野鳥のことをやっている方であれば、そういう情報は持っていると思います。

○服部副委員長 カッコウが生息できる環境にない限りは、これはもう無理ですから、そ

の環境を変えていくということで、市民とともにやっていかなければいけないことになると思います。市の鳥として30年ぐらい前にはカッコウが鳴いていましたというのは、ちょっと寂しいと思います。動物園としては、ある意味で言えば、オジロワシを復帰させようということと同じように、カッコウを飛ばしてしまおうということを種の保存も含めてやっていくというのは、札幌市の円山動物園として大変大事だろうと思いますけれども、いかがなものでしょうか。

○原田委員長 環境を変えてカッコウがすめるようにするというのは非常にいいことですね。

○服部副委員長 夢のあることだと思うのです。

○原田委員長 私がこちらへ来る前、まだ4年前ぐらいですけれども、学校のキャンパスの中にカッコウがいたのです。大きな声でカッコウ、カッコウと鳴くのです。すごくいい声ですね。上の方に巣をつくっているらしくて、そんなに山奥だからいるというわけではなくて、話したような環境がうまく合うと、あたりに何か食べるものがあるのでしょうか。

でも、市の鳥ということであれば、ちょっとそれを何とかできないだろうかというのは、プロジェクトとして考えていいことだと思います。

円山にはいないのですか。あの山もなかなかいい山だと思うのです。

○服部副委員長 昔は、豊平公園あたりでよく鳴いていました。あるいは、月寒公園です。でも、札幌市の鳥である限りは、何とかしなければいけないと思います。札幌から何回も申し上げるように、環境という問題を改善させていく、あるいは維持していくという問題で、動物園として大きな意義のあるものですね。カッコウを動物園から外に放していくということですね。今、動物園にカッコウはどのぐらいおられるのですか。

○上野飼育展示課長 飼育していません。

○服部副委員長 どこ探してもいません。

○上野飼育展示係長 展示もしていません。

○服部副委員長 展示されていません。

実は、円山動物園の中にカッコウがいないというのは格好つかないのです。それだけを言いたかったのです。

○酒井園長 現状、札幌市内でどこの場所でどうなのかといことを調べて……。

○服部副委員長 というよりも、この円山動物園に展示することが基本だと思うのです。市の鳥ですよ。そこをしていないというのは、札幌の市民から見れば、ちょっと違うのではないかなと、普通であれば考えるだろうと思うのです。

○いがらし委員 野鳥保護法がありますから、保護するために円山動物園に来て展示されているというのと、展示したくてつかまえるというのではイメージがかなり違います。いけばいいという問題ではないので、きつとつかまえてこなければいけなくなりますよ。

○服部副委員長 それはそうでしょうね。環境省に許可をいただかなければいけないです

よ。

○いがらし委員 そこまで格好つけたいですか。

○服部副委員長 やはり、札幌市の鳥ですね。

○原田委員長 私は、それを一つの研究プロジェクトにして、どういう環境で、一体何を食べていて、どういうふうにもうづくりをしてということ、生物多様性という条約に入っているわけですから、そういうものの保全のために研究をしないと、あれはどこにいたみたいなのを言うてはだめなのではないかという感じです。

○いがらし委員 そういうことで、必要だと思います。

○服部副委員長 でも、これは市民にカッコウという問題を提案していくことが、ある意味で動物園としては違った側面を見てもらえるということが言えるのではないかと思います。そういった意味で、動物園というのは、単純に動物を展示する場所ではないのですよということが、環境教育の問題もかかわっていますよ、生物多様性の問題もあるのですよということを明確に発信できる、札幌にカッコウの声が聞こえるまちをつくっていかうということは、ある意味で言えば動物園を見直してもらえる必要になっていくだろうと思うのです。

○いがらし委員 動物のことではないのですが、この自然体験ゾーン、ビオトープのことで、さっきの担当の方と話していたのですけれども、物すごく貴重な散策路になるらしいです。草の種類がめちゃくちゃ多くて、百何十種とあるし、雑木林も木の種類がすごく多いということで、かなりいい形で昔からの姿が残されているということをおっしゃっていたのです。植樹とか、そういうのはされないのですかと聞いたのです。そうしたら、できた苗木を植えるということは、どこから来たのか、外来種があるのでわからないから、日影、日向をつくっていかなければいけないので、種からなら植えるかもしれない。そういうことに市民を参加させられればいいですねという話をちょっとしていたのです。

例えば、市民の結婚記念とか、出産記念とか、お誕生日に一粒の種をビオトープの限られた場所に植えるということで、例えば先ほど言ったように、資料として登録しておく。ビオトープの何という木はだれそれさんが結婚記念日に植えましたみたいなものをメモリーとして残していつでも見られるようにしておくという形でやるとすごくいいのではないかと思います。

話がもうちょっと進んでしましまして、20年もたつて多くなり過ぎてしまうと、日影ができて伐採しなければいけなくなると。記念樹を伐採するといつて泣かれると困ると、こんなに大きくなったねといつていたのに切るとなってしまうのはまずいので、ほかの木の日影になるから切らなければならぬこともあるというのを了承して植えてもらって、そのかわり切った木はコースターとか何かの記念品としてやると。例えば、おばあちゃんの80歳の誕生日に植えた木が、子どもたちが40歳、50歳になったときに切られることになったら、おばあちゃんの木はコースターになって家族のところに来たとかね。

漫画家だから、ドラマがぱっと浮かんでしまって、それっていいなとちょっと思ったの

です。

散策の森というのも、市民が参加して、記念とか思い出をつくっていただけだかなと思いました。いろいろなところで参加できる形があると思うのです。それで、私の動物園となればいいなと思います。

○原田委員長 賛成です。

寄附で一口100円とか一口1,000円というもので募集があるのですが、それは実際のところはなくなってしまったのかが後でわからないのです。この木だよというふうにバッチが張ってあると、おれの名前が書いてある、子どもにとっても私の名前が書いてあると、すごくはっきりしていて、これかと。どんどん周りにもそういう苗木が植えられていって、だれだれ、だれだれ、だれだれというのもわかりやすくいいなと思うのです。

○いがらし委員 すごくわかりやすいです。これはおれのだと、ひそかに心に思って、その木の前を成長を楽しみながら通るのはいいですね。通りすがりの人に自慢するわけなくてね。

○須藤委員 きょうも元気だなみたいな感じで。

○原田委員長 多分、円山動物園は隣の円山と一緒にあったはずですが、だから、あそこの木の種を植えていけばもとに戻るのではないかと思います。やはり、動物園は森であっていいのではないかという気がするのです。裸にするのではなくて、どんどん木を植えていってしまっ、円山の木の種を拾ってとるようにして、その時期に計画的に植えていくと。それも、市民あるいは動物園に来た人に植えていってもらおうと、自然にどんどん円山化していくのではないかと思うのです。隣に見本があるので、そこの種を植えていくというのがいいのではないかと私は思います。

○いがらし委員 次に残していくのにすごくいいですね。

○原田委員長 こんなに生い茂ってしまったみたいな動物園になっているかもしれないというのがいいなと思います。

○いがらし委員 空から見たら森しかないみたいな……。

○原田委員長 植物園だったかみたいな……。

○服部副委員長 このビオトープは、ホタルは飛ぶのですか。

○酒井園長 ホタルは飛ばないです。

○服部副委員長 まだえさがいないのですか。

○酒井園長 カワナとかミズモ……。

○いがらし委員 人工でつくっていかねばいけませんよ。

○服部副委員長 カワナをたくさん入れなければいけませんね。

○いがらし委員 どこかふえているところを知っていますか。

○服部副委員長 うちの庭にあります。

○いがらし委員 ホタルが飛びますか。

○服部副委員長 飛びます。

○いがらし委員 やはり、きれいな水とおいしいえさがあればちゃんと生まれてくるので
すね。

○服部副委員長 ここでホタルを飛ばしたらすごく楽しいですね。せっかくビオトープに
したのですから、夜の散策でホタルが……。

○いがらし委員 1, 000人が集まって、1匹見つけても感動すると思います。

○須藤委員 夜に散策ができればいいですね。

○服部副委員長 ホタルは1年で飛ばせるようなものではないですから、時間がかかると
思います。

○原田委員長 ホタルはいいですね。照明は要らないですからね。

○いがらし委員 あったら困りますね。

○原田委員長 照明をつけたら見えないから。

○服部副委員長 いろいろなところに将来に向かっての夢を落とし込んでいけば、円山動
物園は夢の塊というような見方をしてもらえる、そういったときに初めて100万人を突
破していくのだろうと私は思っています。

○原田委員長 太田委員から何かありますか。

○太田委員 ちょっと話が違うのですが、平成20年度の行事等報告がありますけれども、
この中でNPO団体がやっていたり、札幌青年会議所でも人形劇を行わせていただいたの
ですが、このほかにやっているものというのは動物園独自でやっているものなものでしょ
うか。

○酒井園長 先ほどもちょっとご説明したのですが、動物園独自でやっているものは全体
の2割程度で、あとは皆様のご協力をいただきながらやっています。

○太田委員 この中で企業とタイアップしているものはあるのですか。

○北川経営係長 10番の円山歩記は、札幌100マイルさんというブログサイトの運営
をしているウェボスさんという会社とのタイアップのイベントになっています。ZOO L
OHASナイトも、こちらの株式会社との協働のイベントになっています。

○服部副委員長 38番ですね。

○北川経営係長 12番、38番です。

それから、映画とのキャンペーンのタイアップという形で言うと、21番にホートンふ
しぎな世界のダレダーレという映画がありまして、こちらとのタイアップイベントで絵本
の読み聞かせなどが行われております。

変わったところでは、24番、発泡スチロールと書いてありますが、これは発泡スチロ
ール協会さんとタイアップしまして、色が白くて中が空洞ということで、ホッキョクグマ
の毛とすごく似ていて保温性が高いという共通点があるということで、発泡スチロールの
普及ということを、環境にも優しい素材だということと絡めまして、等身大の発泡スチロ
ールのシロクマをプレゼントしてもらって、一緒にキャンペーンをやったということがご

ざいます。

○太田委員 そうというのは、企業の方から提案が出ているのですか。

○北川経営係長 企業から提案をいただくものもありますし、私どもが企業とお話をしていく中で営業をかけていく、こちらから提案するというものもあります。

○太田委員 札幌青年会議所は企業のトップの方が多いので、もしそういうもので何かできるものがないのかということと、毎年、まちづくりの一環としていろいろな事業をやっていますので、その辺でもかかわりを持たせていただきたいと思います。

あとは、今は社団法人から公益社団法人を目指してまして、その関係で、まだ先の話ではあるのですが、使わなければいけないお金が出てくると思うのです。今、そういうものをどういう形で、もちろんまちづくりで使っていこうと思うのですが、札幌青年会議所も広報に使いながら一緒にまちづくりができればということが一番考えていたりしますので、そういうもので一緒にかかわりを持てるものがあればご相談していただきたいと思います。

○酒井園長 ぜひお願いします。

○原田委員長 ありがとうございます。

今も、何かできることがあればというご意見がありました。私は、いろいろな企業が寄附とか協力してくれているというのも、どういう企業がどんなふうに協力してくれているのかということを知らせた方が、協力している企業にとっても効果があったというレスポンスがあると思います。何かやったけれども、どこにも証拠がありませんということだと、なかなか説明しにくいということがあるのではないかと思います。

アニマルファミリーもそうなのですが、企業にも、ララのファミリーであれば白いクマのバッジが送られてくるとか、リッキーであればそういうバッジが送られてくるとか、そういうシンボルのようなものが、寄附をしたのであれば、動物園のどこかのコーナーにばしっと出されると。金額によって大きくなったり小さくなったりするというものかもしれませんが、案外、そういうものはありではないかと思うのです。神社も、すごく大きい石を彫ってありますね。そういうものがあっていいのではないかと思います。そういうのは嫌だということは別にやってもらわなくていいわけですが、ぜひそうしてもらいたいというのが実はあるのではないかと思います。広告という意味でも、どれだけ露出できているのかということが問われると思います。

○太田委員 その辺は私たちも知りたかったところです。

お金そのものの寄附ではなくて、先ほど物という話もありましたけれども、例えば動物をどこかの会社がということはあるのですか。

○北川経営係長 過去の例で言いますと、ライオンズクラブさんがライオンを寄贈していただきました。

○服部副委員長 キリンは。

○北川経営係長 キリンは、まだこれからです。

○服部副委員長 何か、絵を掲げて……。

○北川経営係長 タペストリーはそうです。

○太田委員 ディズニーランドも乗り物には会社名がついています。ゾウの問題は別ですが、例えば、そういうものにどこかの企業がというのがあったりすると、すごく宣伝効果がありますし、お互いにとってもメリットがあると思います。そういうところには、札幌青年会議所も、まちづくりとして知名度を広げたいという部分では何かできればなと思います。

○服部副委員長 スポンサーのプレートをつくろうという話はしていたのですが、それはまだやっていないですね。

○北川経営係長 アニマルファミリーに関しては、もう掲示してあります。また、協賛をいただいている企業についても、適宜、園内にプレートが出ています。

○酒井園長 猿山のところに北専カードさんがあったり……。

○服部副委員長 その程度ですね。

○須藤委員 もうちょっと目立たせてもいいかなと思いました。

神戸市の王子動物園に行ったのですが、あそこは震災があったために直さなければならぬというか、つくりかえなければならなかったようで、かなり新しいのです。統一感があって、それぞれの建物に企業名が出ています。企業自体も大変だったと思うのですが、建物を寄附しているのです。かなりはっきりとわかるように企業の名前がどこにも掲示されているのですが、それは園を回る上で嫌な感じはなかったです。むしろ、会社の人たちも協力してくれているのだな、みんなで盛り上げようとしているというのが目に見えてよかったです。だから、デザイン性だと思うのです。

○いがらし委員 見ている人が、広告があちこちにあると感じると嫌な……。

○服部副委員長 広告と思われてしまうようなのはだめなのです。

○須藤委員 センスよく……。

○いがらし委員 センスよく、はっきりとですね。

○服部副委員長 基本的には、ドネーション文化を醸成していかなければいけないというのは大変大事なことです。まだまだドネーション文化というのは定着していませんけれども、そういった意味では、基本的にはドネーションですから、ドネーションをきちんと示してあげるといえるのは大事だと思います。広告宣伝ではなくてですね。

○原田委員長 品格のあるものですね。

そういうデザインなら任せてください。そんなどぎついものをやったら逆効果ですが、大丈夫だと思います。けれども、出す側としては、出したという結果がどこかにぴしっとプレートなりで表示してあげた方が明快ではないかと思えます。

○須藤委員 それを見て、六甲チーズは頑張っているとか、寄附できるだけ会社に力があるのだなというふうに見る人は見ると思えます。子どもはちょっと違うかもしれませんが、お父さんとかはそう見ると思えます。

○原田委員長 ほかにございますか。

○鈴木委員 最後に2点だけ。

先ほどちょっとお話が出ましたが、前回、ゾウのお話があったのですけれども、市民を巻き込んで考えていく、いろいろな情報をとって検討していくということだったかと思うのですが、その後、どうなさるおつもりなのかということをお伺いしたいと思います。

それから、これから入園者にたくさん来ていただく時期になるのに、多くの方から聞く話は入り口のことなのです。前もこの会議で入り口の話が話題に上がったかと思うのですが、寂しいです。楽しもう、わくわくしようと思って来ているけれども、寂しいと。私にアイデアがあるわけではないのですが、1月に牛の乳しぼりをしまして、寒い時期だったので、どうぞ中に入ってくださって展示を見せていただいて、牛乳をもらって帰るということがありました。入り口のあたりでのイベントというのは、ぜひ何かお考えいただきたいです。

それから、ここで申し上げてもいいのかわかりませんが、私の勤めている北海学園大学では、これから1年ぐらいかけて、私どもの大学で何かできることはないか探っていくという話を2月に学長と園長でしたのです。今のところ何もアイデアはないのですが、とにかく、例えばバンドをやっている学生とか、いろいろな演劇サークルとか、にぎやかしにしかならないと思いますけれども、そういうものに声をかけて場を与えたら喜んでやるかもしれません。こちらから言うべきことかもしれませんけれども、あそこで何かイベントをお考えいただけたらなと思います。

○服部副委員長 以前にもお話が出たと思うのですけれども、いわゆる円山公園の地下鉄からここまでのアプローチが問題です。地下鉄をおりたら、もう動物園に入りましたよというようなイメージづくり、イベントもそうなのでしょうけれども、道すがら動物園につくまでのわくわくドキドキ感の打ち出し方というのは大変大事ではないかということが話し合われて、の議事録に載っていると思うのですけれども、こんなことをしましようということを具体的に提示したと思います。

その辺のことを含めて、やはり玄関前のアプローチが弱いことは事実だと思うので、アプローチを含めてその点を打ち出しすべきことだろうと思います。

○原田委員長 円山公園駅なのだけれども、あれはほとんど動物園駅のようにしてしまっているのではないかという気がするのです。スポンサーが必要かもしれませんけれども、円山動物園駅に来たということでやっていくと、外へもうまくつなげていけるのではないかと思います。

○鈴木委員 今、外国の方は、動物園まで来るのに寒いときは、冬の時期はおもしろいといって北海道神宮に結構行っていらっしゃったのです。こっちに来ないのは、やはり知られていないのと、連れてくる市民の方たちが行こうと思っていないのだなと。

この時期は、円山公園の駅はマルヤマクラス駅になっているようで、それが非常に悔しいなという気がします。もうちょっと頑張ってもらいたいなと思います。

○**原田委員長** 円山動物園クラスになって……。

○**服部副委員長** そのためには、どうしても、ここまで来るアプローチの演出というのは大変大事なことだと思うのです。

○**原田委員長** 逆に言えば、マルヤマクラスと動物園との提携が必要なのでしょうね。少し安くなるよとか、こういうイベントがというのがこっちから、即、向こうに行って、そのチケットを持ってくればちょっと安くなると。あそこは、今のところまだフレッシュなので、そういう連携があるといいのではないかという気がします。

○**いがらし委員** 早く合体してほしいです。あそこは結構おもしろいですよ。私は好きです。

○**服部副委員長** そういうように動物園を話してもらえるような形にしていきたいですね。

○**原田委員長** いがらし委員のような若い人がこの辺に結構たくさん来られていますので、いいと思います。

○**いがらし委員** 何かのパンフレットを置いてもらうとか、完全にマルヤマクラスからこういうふうには動物園に来るんだよみたいな地図をもう一度……。

○**鈴木委員** シロクマの双子のかわいい写真を飾るだけでも違うと思います。

○**いがらし委員** 見に来てねぐらいに。

○**須藤委員** 下の歩くところに動物のモチーフがありますね。

○**鈴木委員** そこまで行かないですよ。

○**須藤委員** あそこまで来させる何かがあるといいかもしれません。子どもは喜んであそこを歩くのです。

○**いがらし委員** 東京でとしまえんという遊園地のそばに住んでいたのですけれども、地下鉄をおりたら、壁がかわいい子どものレリーフで、ちかちか光るような仕組みになっていて、としまえんだなど。やはり、わくわく感があるのです。唯一、円山動物園に来る地下鉄の駅なのに、マルヤマクラスになってしまっているというのは、もったいないですね。

○**服部副委員長** ルーブル美術館の駅も、おりたらもう展示が始まっていますね。

○**いがらし委員** そうですね。幾ら歩いて15分かかるといっても、こっちに引き寄せるものが何か欲しいですね。

○**須藤委員** スタンプラリーではないですかね。

○**酒井園長** 先ほど、鈴木委員からゾウの議論についてのお話がありました。これも前園長からも大きな懸案事項として引き継いでおります。ただ、具体的にこの先どうするかということについては、市民議論ももちろん重要ですが、今、非常に希少な動物をこれからどうするかということで、きっと札幌だけでも考えられないだろうと、他の動物園、特に道内の動物園がこの先どうするかということも含めて、全部が全部、これから同じ動物を飼うということでもないと思いますので、今後、その辺も含めて検討し、また皆さんとご相談したいと思っています。

○**いがらし委員** 今、北海道でゾウがいるのはどこなのですか。

○上野飼育展示課長 帯広1カ所です。

○いがらし委員 また寒いところにいますね。

○新目環境局理事 今、園長がお話をしましたけれども、園長には鈴木委員のご質問等は少し酷かなと思って、私が話さなければならぬかなと思っていました。

回を重ねた市民動物園会議の中で、いろいろと漏れているものや、できていないもの、実現していないものがあります。先ほどもお話がありまして、我々も感じるのは、せっかくいい門を持ちながらその割ににぎわいがいいね、楽しさがいいね、ただ門扉があるだけだよねというのは、まさしく我々も実感している部分でもございます。それから、円山公園駅からここまでのアクセスをどうするのかというのは、物理的な課題もありながら、だからといって手をこまねいているわけにいかなくて何かをしなければいけません。例えば、去年も一つの試みとしてお出迎えをしてみようということがありました。それは、お出迎えはするけれども、現実に来られるお客さんが歩くなり、坂を上らなければならないという思いが実はあるのです。その辺の問題についても、やはりそれぞれ会議の中で出たものすべてを解決できたというところに結果的には至っていない部分があります。

それらの課題につきましては、酒井園長が金澤前園長からも引き継ぎを受けているということと同時に、この会議の一つの議題としましたゾウの問題につきましても、我々は水面下でいろいろ調べておりますけれども、それをどういう形で進めていくかというのは新しいメンバーにある意味で託されている状況でございまして、また機会を設けた中で、こういう進め方を考えています、こんな考え方でどうでしょうかということをかけられると思っておりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思っております。

○原田委員長 わかりました。

ほかにありませんか。

○須藤委員 二つあります。

一つは、「ネイチャー」のダイジェスト版、日本語版ですが、ここに円山動物園が載っていたので、ご報告したいと思います。

内容は何かと言いますと、私はこの世界的に有名な「ネイチャー」の日本語版に円山動物園が載っていることがすごくうれしくてお配りしました。中には、日本の動物園はレクリエーションと自然保護と教育研究の役割の中で、教育研究の部分が弱いと。大学と提携してこれからやっつけようとしているのは、京大と京都市立動物園と名古屋の東山動物園が一つと、酪農学園大学と円山動物園があるということ載せているのです。

私も前から教育と研究の部分がちょっと弱いのではないかなと思っていたのです。大学の学位を持った研究者たちの持っている知識と、実践で培ってきた飼育や展示のノウハウなどの情報交換が今まではなかったのではないかなと思っていたのです。それが実現してきているということが載っているのです、円山動物園が日本の環境教育のお手本となっていけたらいいのではないかなと思ったのが一つです。

6月ぐらいになると、幼稚園等で円山動物園に遠足に来るのです。きょう、始まる前に

園内を見て思ったことは、芝がはげている部分が幾つかあるのです。そこに芝を植えていただけたら、景観としてもいいし、子どもたちがそこでお弁当を食べるのですが、そのときに土の上で食べるのと芝生の上で食べるのは全然違うので、芝生でもクローバーでもいいのですけれども、クローバーだったら栄養なしで肥料も要らないので楽かもしれませんし、余り縦に伸びてこないのでもいいかもしれません。入ったときに、土が出ているのと緑だけなのとではイメージが全然違うのです。土が出ているとちょっと寒い感じがしてしまいます。これから小さい子たちもたくさん来てお弁当を広げられる陽気になってくると思うので、ぜひそこをよろしく願いいたします。

その2点です。

○いがらし委員 今、芝がはげているところに、石ころが結構落ちているのです。その石を拾って子どもがカラスにぶつけているのを目の当たりにして、人なんて無視して歩くような私が思わず「だめよ」と注意してしまったのです。子どもがああいう石を拾って投げるのは、やばいなと思ったのです。手のひらぐらいの結構大きい石がごろごろあるのです。あれは何であるのでしょうか。

○上野飼育展示課長 多分、冬の間には舗装などが氷で割れたりということがあられるかもしれません。ただ、今、園内を一斉に清掃が入っていますので、そういうものは少ないと思います。私は園内を歩きますけれども、大きい石は余り見たことはないです。割れた破片みたいなものは、やはり雪解けとともに……。

○いがらし委員 子どもの手にはいっぱいぐらいの大きさで……。

○上野飼育展示課長 もう一回、園内をよく点検してみます。

○酒井園長 前園長は、毎朝7時に来園して、くまなくチェックをしていたと聞いております。私はまだそこまでやり切れていませんので、ご指摘ありました点は、私もよく回って点検したいと思います。

○上野飼育展示課長 もう一度、園内をよく見回ります。

○いがらし委員 そんなにごろごろでなくて、そののぼこっとした土のところに何個かありました。だから、怒ったらお母さんがびっくりして振り返って、自分の子どもが石を持っているのを見て、あんた何しているのとやっていました。子どもは、親の見ていないところで凶器を持ってしまうのです。

○新目環境局理事 芝の方は、当然、そういうことのための芝ですし、景観上の問題もあるので、植物も相当注視しなければならない意識でやっているのです。私は緑の方も管轄ですが、去年もアースカフェのところで砂ぼこりがたっていて、コカ・コーラの社長に衛生上よくないよねと言われました。これはひどいねという言い方ではなかったのですけれども、それで去年の秋には芝を植えたのです。そういうところは、なるべく芝を植える形でやっています。ただ、きょう言っただけ、あしたにそうならないのが残念なのですけれども、そこについては、景観上もそうですし、お客さんがお弁当を広げるということを前提とした園のつくりをしていますので、注意をしながらやっていきたいと思っています。

何かありましたら、すぐに緑の方に。

○**原田委員長** それでは、時間もそろそろでございますので、これぐらいにいたしまして、次回の議題と日程調整でございます。

○**酒井園長** 次回は、きょういろいろご意見をいただきまして、宿題もいただいたと思っております。きょうは、特にアニマルファミリー制度の今後の充実ということが大きな話題になったと思いますので、次回は、ぜひアニマルファミリー制度の充実案の検討についてという内容でご議論いただければと思っております。

あと、カッコウのプロジェクトのお話もいただきましたので、この辺も私どもの方で少し下調べをさせていただいて、次回、ご議論いただけるような材料を提供できればと思います。

○**服部副委員長** ぜひよろしくをお願いします。

○**原田委員長** それでは、次回の日程でございます。

○**北川経営係長** 改めて日程調整をさせていただきますけれども、恐らく、7月下旬、もしくは8月の頭ぐらいには開催できると思っておりますので、そういうスケジュールでさせていただきます。

○**原田委員長** そのほか、動物園側から何かございましたか。

○**北川経営係長** もし、まだホッキョクグマの双子の赤ちゃんをごらんになっていない委員がいらっしゃいましたら、園長の案内でぜひ双子の赤ちゃんに会って行ってください。

4. 閉 会

○**原田委員長** それでは、きょうはこのあたりで閉めさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

以 上